



ろうさい病院つうしん

発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

病院機能評価受審を終えて



副院長・消化器内科部長 村瀬 賢一

日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。今年の夏はこの数年のなかでも一段と厳しい暑さで、警戒していても熱中症の発症をなかなか防ぎきれない年になった感があります。

さて、7月23日、24日の両日、当院は病院機能評価の訪問審査を受けました。当院としては、前回受審の平成22年以来、5年ぶりの受審になります。昨年秋より医療の質の評価委員会及び各評価対象領域に関連する職員で構成されたワーキング・グループを中心に準備を始め、病院一丸となって審査本番に臨みました。

評価対象領域は、「患者中心の医療の推進」、「良質な医療の実践」、「理念達成に向けた組織運営」から構成されています。審査は訪問前に評価分類ごとに書面審査が行われ、各専門領域（診療管理、看護管理、事務管理）で構成された評価調査者（サーベイヤー）が来院し、実地による審査が行われました。

常日頃より、当院では、地域に根ざし、安全・安心、信頼と納得の得られる質の高い医療サービスを効率的に提供するため、改善活動を推進しています。このような取組みをさらに効果的なものとするためには、第三者による評価が有用となります。第三者の評価により、病院の位置付けや問題点が明らかになり、院内体制の一層の充実や医療の質の向上につながる改善活動が推進されることが考えられます。つまり、病院機能評価を受審することは、認定されることがゴールではなく、自院の現状を把握し、より良い医療の実現を目指すために職員が一体となる重要なプロジェクトであろうと思います。

当院は、今後も地域に必要とされる病院を目指し、日々病院機能の改善、向上に努めていきますので、今後とも、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(追記)

日本医療機能評価機構より平成27年10月2日付けで機能種別「一般病院2」において「認定」の審査結果をいただきました。

永年勤続30年に思う

副院長 南木 道生



今年、勤続30年を迎え、創立記念日の7月1日に表彰していただきました。この30年間、一緒に働いた多くのスタッフに支えられ、大勢の患者さんを診させていただきました。また、地域の診療所や病院の皆様にも、紹介・逆紹介を通じて大変お世話になり、有難く思います。

さて、30年前と現在の中郡ろうさい病院では、建物や設備はもとより、システムや制度もまるで別の病院のように効率的に変わっています。

職員は歳々年々人同じからずですが、患者さんの為に一生懸命で、よりよい医療を提供したいという気持ちは不易の様になります。

短期間では変化は分かり難く、同じ事を繰り返しているように感じますが、長い期間で振り返ると、螺旋階段のように一段ずつの進歩が積み重なって大きな変化に繋がっている事が観えます。今後も患者さんを地域で支え、地域社会に必要とされる病院であり続ける事が大切と改めて思った1日でした。

永年勤続20年の表彰を受賞して： 転石、苔を生ぜず

院長 加藤 文彦



1995年4月に着任致しましたので、7月1日に永年勤続20年の表彰をして戴きました。ここで私の頭に浮かんだ言葉は「転石、苔を生ぜず」です。これには二つの解釈があり、苔を良いものとするか、悪いものとするかで全く意味が異なります。良いものと考えれば「じっとせず落ち着かない人は良い結果が得られない」という戒めの意味が込められています。悪いものと考えれば「常に活動的な人には苔のような汚いものがまとわりつかない」というポジティブな意味になります。

私の専門領域である「脊椎・脊髄外科」では、当院において20年間で7,500例を超える手術を行いました。これは前者の解釈と考えますし、病診連携・病病連携の先生方の御支援あつての賜物と考えます。一方、技術・知識に関しては、20年間の進歩に対応してきましたし、新しい情報も発信してきたと思います。これは後者の解釈と考えます。今後も「転石、苔を生ぜず」の精神で臨みますので、宜しく願い申し上げます。

昨今の産婦人科診療

産婦人科部長 藤原 多子



平素より先生方には、ご紹介を含め当科の診療にご協力いただきありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。

昨今の産婦人科診療におきましては、ロボット手術の導入や、悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術の適応開始など、従来の治療に加え治療方針の変革期を迎えています。

当院でも、2014年度より良性疾患に対し腹腔鏡手術を導入いたしました。適応症例を検討した上で施行しておりますが、術後疼痛の減少、早期離床、入院期間の短縮、療養期間の短縮における有効な結果を得ており、患者さんにも大変好評なことから希望される患者数も増加しております。腹腔鏡での子宮摘出、卵巣腫瘍手術を検討される患者さんがみえましたら、是非ご紹介下さい。

子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌などの婦人科悪性腫瘍症例は増加傾向とされています。日本婦人科腫瘍学会では、癌治療ガイドラインをそれぞれ作成し、女性に特有ながんの治療の標準化を目標に、診断や検査の強化が進められています。子宮頸癌診断においてはコルポスコピー検査が必須となり、当院においても症例は増加し、2015年9月よりコルポ外来を新設し、より迅速に診断、治療ができるような診療体制を整備いたしました。

産婦人科診療におきましては、2014年度より医師による集団指導、2015年度より助産外来を開始し、妊婦さんに対する個別指導を施行しております。スタッフ一同で妊婦さんの不安を少しでも減らし、安全な周産期管理を目指して、産後の母乳指導にもつなげていこうと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

腎臓病における新しい治療

腎臓内科部長 志水 英明



腎臓病領域では新たな治療法が開発され、臨床でも使用され始めています。腎臓病では血圧コントロールが重要ですが、降圧療法以外でも疾患のメカニズムに直接作用する治療方がいくつかありますので、ご紹介いたします。

1 常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) ※2015年1月より医療費助成対象

遺伝性の病気で、PKD1またはPKD2遺伝子の異常で起こります。常染色体優性遺伝のため、2分の1の確率で親から遺伝します。透析導入となる平均年齢はPKD1で54歳、PKD2では74歳であり、現在、透析導入の原因疾患の第4位となっています。これまでこの疾患に対する治療法はなく、高血圧や腎不全に対する対症療法しかありませんでした。

しかし、2014年3月にサムスカ® (トルバプタン) がADPKDに対する治療薬として認可されました。この薬は、すでに心不全に対する利尿薬として使用されていましたが、腎臓の嚢胞の増大や腎機能の低下を抑える効果があることが国際共同臨床試験で確認され、多発性嚢胞腎の進行抑制を目的に適応拡大となり、本邦で初めて処方可能となったものです。

腎臓の容積が左右合わせて750ml以上、また、腎臓の大きさが年間5%以上増大している方が適応となります。2015年1月からは「難病の患者に対する医療等に関する法律」の施行により指定難病となり、医療費の助成

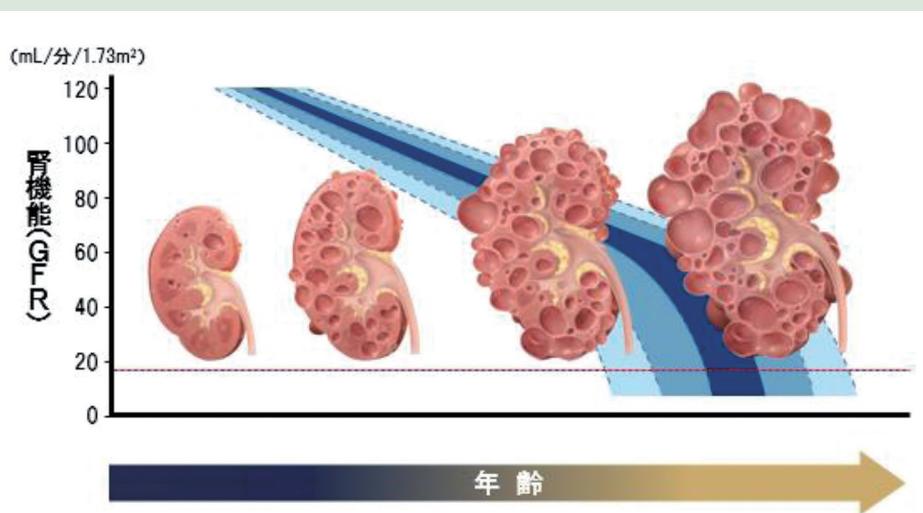


図 多発性嚢胞腎臨床経過 (大塚製薬 資料より)

対象となりました。

腎機能が低下する前の治療開始が有効です。30歳以上で腎嚢胞がない場合、この疾患の可能性は低いとされていますが、30歳未満では嚢胞がまだ無いこともあります。近親者が腎不全や透析をしている場合、嚢胞が多発している場合などは、ADPKDが疑われますので当院までご紹介ください。

2 ファブリー病 若い男性の蛋白尿で鑑別すべき疾患 医療費助成対象

ファブリー病はX染色体上の遺伝子異常で起こり、 α -ガラクトシダーゼ酵素が欠損し、globotriaosylceramide (Gb3) がライソゾームに沈着することにより症状を引き起こす病態です。皮膚、眼、神経、血管、腎臓、心臓などの多臓器障害を引き起こします。若い男性の蛋白尿や多尿、慢性腎臓病で鑑別すべき疾患です。

典型的な男性患者では、幼少時より四肢末端痛、被角血管腫、低汗症、無汗症、角膜混濁などの症状を認め、その後、加齢に伴い多発性小梗塞などの脳血管障害、腎不全、心不全を発症し、40～50歳代で死に至ります。女性でも程度は軽いですが発病する事があり、心臓のみに沈着する心ファブリー病もあります。

治療法としては、医療費の助成対象となっているヒト α -ガラクトシダーゼA酵素蛋白を2週間に1回点滴投与することにより進展を抑制します。

◆以下の症状がある場合、ファブリー病が疑われます。

- ・手足の先が痛いことがよくある
- ・汗をかかない、または汗をかきにくい
- ・熱いお風呂が苦手で、手足をつけられない
- ・健康診断でたんぱく尿を指摘された
- ・腎不全または心肥大で、その原因が分からない
- ・ご家族やご親戚のなかに、若い頃に腎不全や心不全、脳梗塞になった方がいる

(Genzyme ホームページより)

当院では、酵素活性をスクリーニングする事が出来ますので、蛋白尿が認められる患者さんがいる場合はご紹介いただければ幸いです。

NST (栄養サポートチーム) の紹介を致します。

栄養管理部 主任管理栄養士 関口 まゆみ
NST専従管理栄養士



* 当院NSTの目的

- ・適切な栄養管理法の選択
- ・適切かつ質の高い栄養管理の提供
- ・早期栄養障害の発見と早期栄養療法の開始
- ・栄養療法による合併症の予防
- ・感染症や褥瘡の発生予防
- ・病院スタッフのレベル・アップ
- ・医療安全管理の確立とリスクの回避
- ・在院日数の短縮と入院費の節減

私達は上記を目的に、

- ①SGA (看護師が入院3日以内に作成)
- ②栄養管理計画書
(管理栄養士が入院1週間以内に作成)
- ③ALB3.0g/dl以下リスト
(臨床検査技師が週1回作成)
を元に、毎週病棟カンファレンスでNST介入必要患者を抽出し、主治医に上申、主治医からNST介入依頼があった患者さんに栄養介入を行っています。

* 当院NSTの今年度の計画、目標

- ・外科と組んでERAS (術後回復能力プログラム) の全科型立ち上げ
- ・King's Stool Chartを用いた排便評価法の導入、定着
- ・公開セミナー「認知症患者の口腔ケア」開催
平成27年11月13日(金) 18時から
(ご興味のある先生、ぜひご参加下さい。詳細、お申込は当院ホームページをご覧ください。)
- ・JSPEN (日本静脈経腸栄養学会) での研究発表

* 当院NSTの特徴は多職種によるチーム医療です。

- ①介入科・件数
1位 呼吸器内科 2位 外科 3位 総合内科
4位 形成外科
平成26年度 861件
- ②医師
糖尿病・代謝内分泌内科、耳鼻咽喉科、腎臓内科、形成外科、循環器内科、外科と多数の医師が各専門分野からの提案を行っています。
- ③摂食・嚥下障害看護認定看護師2名
必要に応じて、経管栄養導入や胃ろうも提案し、低下した「食べる力」をとりもどし、口から食べて退院を目指します。
- ④NST専従は管理栄養士
低栄養患者さんへは、非経口栄養時からでも「栄養の力で患者さんの役に立ちたい、口から美味しく食べて元気になっていただきたい」と考えています。
・外科、呼吸器内科、ICU病棟NSTカンファレンス参加・月1回、院外のNST勉強会に参加(講師：兵庫医科大学救急救命センター医師)
・JSPEN、研究会、研修会等へ毎月参加
・院内NST勉強会を今年度は5回計画しています。
- ⑤薬剤師、臨床検査技師、看護師1名、各病棟リンクナース(P T、S Tも今後参加予定) 委託管理栄養士の参加
各コメディカルのカも大きいです。



どうぞ、よろしくお願いいたします。

最新型の血管造影X線診断装置を 平成27年11月2日より新規導入いたします。



当院では、最新型の血管造影X線診断装置「Allura Clarity FD20/10」(オランダ フィリップス社製)を平成27年11月2日より新規導入いたします。

この装置を使用し、全身の血管内治療を実施することが可能です。

また、この装置では従来の3割のX線使用量で検査や治療を実施することが可能となっており、より患者様への負担を少なく検査、治療を行うことが可能となります。

血管内治療が必要となる患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ、当院にご紹介くださいますようお願いいたします。

地域医療連携室だより

VSRADによる認知症診断について

近年、超高齢化社会が進む中、アルツハイマー型認知症は急増し、介護を含めて社会問題にもなっています。

早期アルツハイマー型認知症の画像診断においては、認知症の症状がみられない軽度認知障害の段階での診断の重要性が増しています。

当院では、MRIの画像情報を、健常者の標準化した脳画像と比較することによって、早期アルツハイマー型認知症の診断を支援する早期AD診断支援システム『VSRAD』を導入し、アルツハイマー型認知症の補助診断に利用しております。

認知症診療に関しては今後、登録医の先生方との医療連携がさらに重要になると思われます。

認知症の疑いや、早期診断支援ツールとして当院の『VSRAD』をご活用ください。

検査のご依頼



連携医療機関様

地域医療連携室へ「放射線科検査依頼票」にて「MRI検査」をお申込みください。その際に『VSRAD希望』とご記入ください。

検査当日



中部労災病院

MRI検査を実施いたします。MRI撮影時に『VSRAD』用の画像処理をいたします。

結果返送



連携医療機関様

通常のレポートと併せて連携室より『VSRAD』の解析レポートを送付いたします。患者さんの費用は変わりません。

医師交代

☆退職

(平成27年6月30日付)

寺西 克仁 心臓血管外科部長

富野 竜人 リウマチ科副部長

太田 圭祐 脳神経外科医師

岡崎 由利子 耳鼻咽喉科医師

(平成27年7月31日付)

竹下 昌宏 循環器内科医師

(平成27年8月31日付)

野村 篤史 リウマチ科医師

尾関 俊和 腎臓内科医師

大内田 隼 整形外科医師

☆採用

(平成27年7月1日付)

磯浦 東 総合内科医師

(平成27年10月1日付)

鈴木 俊裕 外科医師

☆補職

(平成27年9月1日付)

濱田 卓也 リウマチ科副部長

大山 友香子 腎臓内科副部長

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30)
052-652-5950 (TEL)
052-652-5716 (FAX)

室長：加藤 文彦 (院長)
藤田 芳郎 (副院長)
事務担当：今関 信夫・福島 詠子・
内藤 遵子・金井 久実